

各位

党派を超えて国家的課題を追求する

公益財団法人協和協会  
時代を刷新する会

両団体会長代行 岸 信 夫  
両団体理事長 半 田 晴 久  
環境技術委員長 坂 本 忠 彦  
両団体専務理事 清 原 淳 平

環境技術委員会のお知らせ(第356回)

日時 平成31年3月20日(水)午後1時半～4時

場所 衆議院第一議員会館 地下1階 第3会議室

千代田区永田町2-2-1

◆国会議事堂前駅(丸の内線・千代田線)①番出口より2分、永田町駅(有楽町線・半蔵門線)①番出口より下車5分。当日、午後1時より、議員会館玄関にて、通行証を差し上げます。その時刻前に到着された方は、恐縮ですが、受付脇のロビーにてお待ち下さい。会議開始後にお越しの方は、受付に「第3会議室に行きたい」旨お伝え下されば、お迎えに参ります。

議 題 1、「環境問題について、昨今、想うこと」

挨拶 坂本忠彦環境技術委員長

2、CO2から合成樹脂技術

解説 杉本裕東京理科大学工学部教授

3、『環境技術関連ニュースNO.177』

解説 中島稔科学技術部会長

報 告 去る2月20日開催の第355回環境技術委員会は、坂本忠彦委員長が議長を務め行われました。まず、坂本委員長より、「環境問題について、昨今、想うこと」と題して開会挨拶がありました。次第に暖かくなってきたが、先週は寒気が広い範囲で拡大し、北海道では-30℃の地域もあった。一方南半球では47℃を記録する地域があり、地球全体のバランスはとれている。トータルで見ると去年は暖冬だったようで、少しずつ温暖化は進行しているとみられる。今回も、前回に引き続きプラスチック問題を採り上げるが、環境に害を与えないプラスチックを開発するか、プラスチックを全廃するかが主眼になるだ

ろう。

次に、清原淳平専務理事より、岩田忠久東京大学大学院教授・総長補佐の経歴紹介がありました。次に、岩田教授より、「プラスチックと人類および環境の共存共栄を目指して一生分解性バイオマスプラスチックの観点から」について解説がありました。日本では、年間プラスチックを1150万t生産し、970万t廃棄している。リサイクルされているのはわずか21%で、それ以外はほとんど燃やされている。石油由来のプラスチックでは、製造時にも廃棄時にもCO2が発生するので、生分解性プラスチックが望ましい。植物由来で生分解性なのは、現在すべて、植物のでんぷんを酵素加水分解して生まれるポリ乳酸だけである。このポリ乳酸も、一般の土壌や水中では分解せず、高温・多湿化でなければ分解しない。今後、嫌気でも好気でも分解するポリエステルや、生分解性の速度や分解するタイミングをコントロールできる機能を生分解性プラスチックに持たせる手段を検討している。いま、酵素をプラスチックに練りこみ分解しやすくする方法を試している。現在の石油由来のものと同程度のコストまで下げられれば、実用化は可能だ。

次に、中島稔科学技術部会長より、『環境技術関連ニュース No.176』の解説がありました。今回は、○環境省と経産省が合同で、代替フロンを一度でも不法投棄すれば罰金を科す法改正を目指す。今までは繰り返し違反する業者が対象だったが、強化する方針。○地球温暖化の影響で、小麦や大豆などが減産、年4.8兆円の被害。一方高温に適した米に影響はなかった。○今世紀半ばに豪雨の量が1割増えるとの見通し。一方で雨の降らない日も増え、両極端になる。○乗用車エンジンの熱効率を、4割から5年で5割に引き上げることに成功。3大学の共同チーム。○福島川のセシウム濃度が減少。地中に吸収され、川に流れ出にくくなったことが原因か。○海洋研究開発機構、スーパーコンピューターで異常気象を数か月前に予測するプログラムを開発。○今夏、東京に伊勢湾台風級が襲ったら、江戸川、江東など東部地域に甚大な被害をもたらすだろうという予測。関西空港で起きた事態は他人事ではないと専門家。などの解説があり、一同大いに勉強になりました。

★レクチュアにつき、当日会費千円にご協力をお願い申し上げます。

次回、3月20日(水)の環境技術委員会に

出・欠 (いずれかに○印)

御芳名 \_\_\_\_\_

貴方様のFAX \_\_\_\_\_

テロ対策への警備からの要請上、会員に限ります。

非会員で参加希望者は、2日前までに履歴書をご提出下さい。

(その際の当日会費は二千円となります。)

事務局宛FAX 03-3507-8587

公益財団法人協和協会 03-3581-1192 時代を刷新する会 03-3272-4320